

住宅第1234号
昭和63年8月19日

各 支 庁 長 様

住 宅 都 市 部 長

浴室内における一酸化炭素中毒の事故防止について

最近、民間アパートにおいて入浴中、一酸化炭素中毒で死亡する事故が2件あり、原因として①浴室に隣接する換気扇を回して入浴、②風呂釜は自然排気式で燃焼中などの共通点が考えられます。

このようなことから、道営住宅入居者に対し、事故防止のため、自然排気式風呂釜を使用している場合は、バランス釜（強制吸排気式）への変更や、入浴中に住戸内の換気扇は使用しないなどについて注意するよう周知願います。

なお、現在バランス釜を使用している場合は、特に問題となるものでないので申し添えます。

また、市町村営住宅についても同様に考えられますので管下市町村に対しても指導願います。

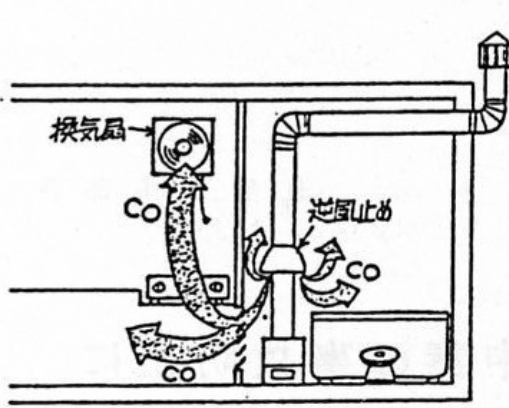
（住宅課住宅管理係）

換気扇回し浴室に排ガス逆流

札幌白石で男性中毒死

2月には豊平のOLも

利用者に注意呼びかけ



札幌市内で今年になって「死亡する事故が二件あった。道警などの調べで、台所の換気扇によ

り、浴室ふろがまの排ガスが逆流することが分かり、北海道ガスは「入浴中は換気扇を回さないように」と注意している。

八月六日に同市白石区内のアパートで会社員(三モ)が、二月十六日には同市豊平区内の

アパートでOL(二モ)が一酸化炭素中毒で死亡しているのをそれぞれ訪ねてきた人が発見した。

二つの事故は、①ふろ付きのワンルームのアパート ②台所の換気扇を回して入浴 ③ふろがまは自然排気式 ④ふろがまのスイッチの位置は燃焼一などの共通点があり、周囲の状況からガス自殺の可能性はなかった。

このため、道警と札幌豊平、白石両署はなぜ一酸化炭素が浴室内に充満したか

を調べるため、それぞれのアパートを使って数回、実験した。この結果、換気扇の作動で部屋内や浴室内の空気が移動することによって、ふろがまの排ガスが浴室内へ逆流することが分かった。

逆流したのは、室内煙突の途中がかさ状に広がり、すき間のある「逆風止め」という部分から。

道警などは、実験は「事故当時の状況を完全に再現したのではない」として、

換気扇が中毒事故の原因と、断定していない。一方、実験に立ち会った北海道ガスによると、自然排気式のふろがまは同市内で二万二千台使用されており、「道内の住宅は気密性が高く、事故の危険性もある」として、使用者にシラを配り、事故防止を呼びかけている。